

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.10.5 No.361 東京・羽村平和委員会発行



「東京」10月1日

## 横田オスプレイ調査 防衛省が取りやめへ

### 都や地元は継続要請

米軍横田基地（東京都福生市など）に配備されている米空軍の垂直離着陸輸送機CV22オスプレイの離着陸状況を目視で調べている防衛省が、日常的な調査をやめる方針を都と地元市町に伝えていたことが分かった。都は三十日、地元の五市一町とともに調査継続を防衛省側に口頭で求めた。

防衛省によると、調査は北関東防衛局の職員が同基地周辺で、休日を除き毎日、朝から日没まで実施。今後は、訓練などの事前情報で米側からあった場合などに縮小する。同省担当者は「昨年十月の正式配備から一年たち、飛行状況はおおむね分かってきた。連日の調査は職員の負担も大きい」と説明。自治体側にさらに理解を求めたうえで、十月にも正式に決定する。米軍は日常的な飛行情報を提供していないため、同防衛局は昨年四月のCV22の初飛来以降、独自に調査し自治体側に伝えてきた。一方で報告回数を日ごとから月ごとに減らすなど、段階的に縮小してきた。

## 都と5市1町、CVオスプレイ目視調査の継続を防衛省に要請

【要請内容】 米軍基地の運用に関する情報は、国の責任において提供されるべきものである。そのため、横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会は、横田基地へのオスプレイの配備に当たり、昨年4月の配備計画発表以降、複数回に渡り国に対し、オスプレイの訓練等に関する情報を迅速かつ正確に提供するように要請してきた。

ところが国は、正式配備から僅か3か月後の本年1月には、毎日実施していた目視情報の提供を月1回の集計情報情報に変更するとともに、土曜日及び日曜日の目視を中止したが、さらに今回、オスプレイが常駐機として配備後1年を経過することを理由として、10月1日以降目視情報の提供を全て中止する旨、通告してきた。

しかし、2024年頃までに5機のオスプレイの追加配備が予定されている中、基地周辺住民は、依然、オスプレイの運用について不安を感じ、関心も高い状況にある。よって、次の通り要請する。

● 2019年10月1日以降も、横田基地におけるオスプレイの目視による情報提供を継続すること。

## 10月1日オスプレイ正式配備1年、第2ゲート前で50人が抗議



# 防衛省目視、11ヶ月で 536回 今後は隠蔽か



## 横田ヘリ、捜索救難任務

横田基地には、4機のUH-1Nヘリコプターが常駐しています。第374空輸航空団第459空輸飛行隊です。

麻布ヘリ基地へ行き来しているのは知られていますが、2016年以降、4機のヘリコプターのうち2機に、新たな救難用つり下げ式巻き上げ機が装備され、捜索・救難任務が加わり、そのための訓練(ホイスト訓練)が行われています。捜索・救難任務は、敵地や最前線に墜落、下したパイロットを救出する危険な任務です。特殊作戦の任務ですね。

下の上の写真は、先日の横田友好祭で展示した訓練、下の下の写真は、キャンプ富士で訓練する横田のUH-1Nです。(米軍HP)



UH-1N ホイストを使用したレスキューオペレーション



横田ノースドックでつり下げ訓練をする横田基地所属のUH-1Nヘリ。4月25日、横浜市(在日米軍横田基地ホームページから転載)

横浜港の中心部を占拠する米陸軍・横浜ノースドック(横浜市)所で、在日米軍横田基地(福生市など東京都多摩地域の5市1町)所属のUH-1Nヘリコプターが、日本側に通告せず兵員のつり下げ訓練を実施した。

# 米陸軍・横浜ノースドック 横田基地ヘリが無通告訓練

2016年5月16日

訓練の実施については、米軍からは、防衛省・関東防衛局、神奈川県、横浜市には事前にも通告されていませんでした。横浜市は18日前、南関東防衛局に対し、事実関係の情報を開

示と市民生活に影響を及ぼす米軍の運用について事前に情報提供するように南関東防衛局に要請しました。在日米軍基地の情報提供しているリムビ

## 戦争法で出撃基地として強化

米軍横浜ノースドックでの訓練の実施は、特殊作戦機CV-22オスプレイ配備計画などとも一致し、戦術法のもとで在日米軍横田基地が、実戦部隊を最前線に投入する出撃基地として強化されつつあることを浮き彫りにしました。訓練を実施した第459空輸飛行隊は今年2月に入り、戦場に降下した兵士などを捜索し救難する能力を改善・強化するため、所属する4機のUH-1Nのうち2機に、つり下げ式巻き上げ機を装備。横田基地などで訓練を実施しています。4月25日の訓練について横田基地のホームページは、同飛行隊が「実際は、回飛行隊が一実施した。」と説明しました。

「追跡」在日米軍基地によると、29日午前、UH-1N1機がノースドック上空を旋回後、10分ほどの高さでホバリングし、兵士1人をつり下ろした。その後、周辺を旋回し、再びつり下ろし地点で、兵士をつり上げる訓練を2回繰り返したとされています。ホームページには、25日夜実施されたノースドック上空の訓練飛行での監視カメラを使用したつり下げ訓練の写真が掲載されました。(一部省略)

緊急態・作戦に備えるため、多数の想定で頻りに訓練している」と繰り返して訓練していることを伝えました。日本側に事前通告しなかったことについて、横田基地広報部は「原則として運用管理上の理由で、航空機の飛行の詳細は、公表していない」と説明しました。